

## 学会記事 Newsletter

I. 本学会名誉会員 牧野佐二郎先生には、1989年8月6日、心臓麻痺にて急逝されました。ここに謹んでお悔み申し上げます。

本学会名誉会員 篠遠喜人先生には、1989年9月16日、心不全にて逝去されました。ここに謹んでお悔み申し上げます。 (会長 松永 英)

### II. 日本人類遺伝学会評議員の改選

本学会評議員は、改選が行われた結果、下記の114名の会員に委嘱された。

#### 平成 元~3 年評議員

浅香 昭雄	山梨医科大学保健学教室	折居 忠夫	岐阜大学医学部小児科
阿部 達生	京都府立医科大学衛生学教室	梶井 正	山口大学医学部小児科
荒木 淑郎	熊本大学医学部第一内科	金子安比古	埼玉県立がんセンター
有馬 正高	国立精神・神経センター武蔵病院	鎌田 七男	広島大学原爆放射能医学研究所
阿波 章夫	放射線影響研究所遺伝学部	亀山 義郎	名古屋大学環境医学研究所
池内 達郎	東京医科歯科大学難治疾患研究所	川井 尚臣	徳島大学医学部第一内科
池田 高良	長崎大学医学部第一病棟	岸 紘一郎	福井医科大学法医学教室
石原 隆昭		北川 照男	日本大学駿河台病院小児科
石本 剛一	三重大学医学部法医学教室	木田 盈四郎	帝京大学医学部小児科学教室
一色 玄	大阪市立大学医学部小児科	鬼頭 昭三	広島大学医学部第三内科
井上 英二	東京大学名誉教授	木村 資生	国立遺伝学研究所名誉教授
今泉 洋子	厚生省人口問題研究所	黒木 良和	神奈川県立こども医療センター
今村 孝	国立遺伝学研究所人類遺伝学研究部門	黒田 泰弘	徳島大学医学部小児科
遠藤 晃	山形大学医学部衛生学教室	近藤 郁子	琉球大学保健学科基礎保健学
大石 英恒	愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所	近藤喜代太郎	北海道大学医学部公衆衛生学教室
大倉 興司	東京医科歯科大学難治疾患研究所	界 俊明	大阪医科大学神経精神医学教室
大堂 庄三	宮崎医科大学小児科	榊 佳之	九州大学遺伝情報実験施設
大野 文俊	高知医科大学第二内科	坂本 博三	兵庫医科大学遺伝学教室
大浜 紘三	国立呉病院産婦人科	佐々木正夫	京都大学放射線生物研究センター
岡島 道夫	東京医科歯科大学法医学教室	佐々木元賢	長崎大学歯学部口腔外科学講座
岡村 敏弘	由利総合病院小児科	佐々木本道	北海道大学理学部動物染色体研究施設
岡本 直正	宮崎医科大学	笹月 健彦	九州大学生体防御医学研究所遺伝学部門
荻田 善一	富山医科薬科大学和漢薬研究所	佐藤 孝道	虎ノ門病院産婦人科
尾本 恵市	東京大学理学部人類学教室		

佐藤 幸男	広島大学原爆放射能医学研究所		健研究室
島田 和典	熊本大学医学部生化学第一教室	古川 研	群馬大学医学部法医学教室
清水 信義	慶応義塾大学医学部分子生物学教室	古庄 敏行	杏林大学保健学部疫学教室
		古山 順一	兵庫医科大学遺伝学教室
白神 隼	徳島大学医療技術短期大学部	本庶 佑	京都大学医学部医化学教室
十字 猛夫	東京大学医学部附属病院輸血部	馬嶋 昭生	名古屋市立大学医学部眼科
末原 則幸	大阪大学病院産婦人科	松井 一郎	国立小児病院小児医療研究センター小児生態研究部
鈴木 雅洲	スズキ病院		
鈴森 薫	名古屋市立大学医学部産婦人科	松田 一郎	熊本大学医学部小児科
藺田 精昭	京都府立医科大学衛生学教室	松田 健史	富山医科薬科大学医学部第一解剖
祖父尼俊雄	国立衛生試験所変異原性部		
孫田 信一	愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所	松田 博	愛媛大学医学部小児科
		松永 英	国立遺伝学研究所
高林 俊文	東北大学医学部産婦人科	松本 秀雄	大阪医科大学法医学教室
竹下 研三	鳥取大学医学部脳神経小児科	美甘 和哉	旭川医科大学生物学教室
武部 啓	京都大学医学部放射能基礎医学教室	三木 哲郎	大阪大学医学部附属病院第四内科
多田 啓也	東北大学医学部小児科	三木 敏行	帝京大学医学部法医学教室
巽 紘一	京都大学医学部分子腫瘍	三沢 信一	京都府立医科大学第三内科
千代 豪昭	大阪府豊中保健所	宮尾 益英	徳島大学医学部小児科教室
月野 隆一	和歌山医科大学小児科	宮地 隆興	国立下関病院
津田 和矩	宮崎医科大学第二内科	三輪 史朗	(財)沖中記念成人病研究所
寺脇 保	鹿児島県立短期大学	森 正敬	熊本大学医学部附属遺伝医学研究施設実験遺伝病部
外村 晶	東京医科歯科大学難治疾患研究所細胞遺伝部門	森本 兼襄	大阪大学医学部環境医学教室
		安河内幸雄	東京医科歯科大学難治疾患研究所人類遺伝学部門
内藤 説也	福岡大学医学部第二内科		
中井 博史	東北大学医学部小児科学教室	安田 徳一	放射線医学総合研究所遺伝研究部
中込 弥男	国立小児病院小児医療研究センター先天異常研究部		
		安田 峯生	広島大学医学部第一解剖
中島 章	順天堂大学医学部眼科	柳瀬 敏幸	九州大学名誉教授
中嶋 八良	東京医科歯科大学法医学教室	山口 雅也	佐賀医科大学内科
橋原 幸二	岡山大学医学部小児科	山田 清美	国立病院医療センター臨床研究部遺伝疫学研究室
成澤 邦明	東北大学医学部病態代謝	山野 利尚	高知医科大学第二内科
新川 詔夫	長崎大学医学部原爆後障害	山村 研一	熊本大学医学部遺伝医学研究施設細胞遺伝部門
野本 直記	京都市児童福祉センター小児科		
浜口 秀夫	筑波大学基礎医学系人類遺伝	山本 佳史	自治医科大学小児科学教室
日暮 真	東京大学医学部保健学科母子保健学教室	吉田 迪弘	北海道大学理学部動物染色体研究施設
		和田 義郎	名古屋市立大学医学部小児科学
服巻 保幸	九州大学遺伝情報実験施設		
福山 幸夫	東京女子医科大学小児科		
藤木 典生	福井医科大学第二内科		
藤田 弘子	大阪市立大学生活科学部児童保		

**理事, 学会賞選考委員の改選**

会則により理事の半数改選が行われた結果, 新理事として下記の 3 名が選出された。

浜口秀夫 (筑波大学基礎医学系人類遺伝部)

日暮 真 (東京大学医学部保健学科)

松田一郎 (熊本大学医学部小児科)

学会賞選考委員の一部改選が行われた結果, 新委員として下記の 3 名が選出された。

佐々木正夫 (京都大学放射線生物研究センター)

笹月健彦 (九州大学生体防御医学研究所)

外村 晶 (東京医科歯科大学難治疾患研究所)

平成元年 7 月 18 日 (庶務幹事 今村 孝)

**III. 平成元年度理事会**

日 時:平成元年 8 月 31 日 (木) 12:30~16:10

場 所:東京医科歯科大学 1 号館

出席者:松永会長, 笹月, 佐々木, 中込各現理事, 浜口, 日暮, 松田各新理事, 三輪, 梶井各旧理事,  
竹下今期大会長, 岡島会則等検討委員長, 安河内, 今村各幹事

**報告事項**

1. 去る 5 月の評議員選挙に引き続いて行われた理事および学会賞選考委員半数改選のための選挙の結果が報告された。なお, 会長より, 学会賞選考委員については数年前から, 正確に半数 (3 名) ずつの改選が行われていないことの指摘があり, 今回はそれを是正するための特例措置として, 先に選ばれた委員 3 名に加えて, 任期 2 年の委員 1 名を置くことが諮られた。協議の結果, 美甘和哉評議員 (旭川医科大学生物学教室) が推薦され, 諒承された。
2. 名誉会員の福田邦三氏, 牧野佐二郎氏の御逝去が報告された。
3. 今年度大会の準備状況について竹下大会長より報告があった。
4. 研究推進委員会の最終報告書が, 梶井, 三輪各理事によって厚生, 文部両省と日本医師会に持参され, さらに大学医学部等各教育機関に配付された旨の報告があった。
5. 編集委員長より, 学会誌 34 巻 2 号の刊行, 論文の投稿状況, 次号刊行予定について報告された。
6. 会計幹事より, 昭和 63 年度会計報告, 平成元年度会計中間報告がなされた。
7. 日本学術会議・遺伝医学研連, その他各理事の担当事項等について経過報告がなされた。
8. 学会賞および学会奨励賞の選考結果について報告された (本誌 34 巻 2 号, 学会記事参照)。

**協議事項**

1. 新たに教育推進委員会を設置することについて協議した結果, 大筋においてこれを諒承した。
2. 本学会に認定医制度を設けることについて協議し, とりあえずこれに関する調査検討委員会 (委員:梶井, 三輪, 松田, 浜口, 黒木の各評議員) をおくことが諒承された。
3. 会則等検討委員長より, 委員会における審議経過の中間報告が行われた。種々協議の結果, 第 11 条についてはさらに検討を要するが, それ以外の変更に関しては提案を大筋において諒承し, 次回評議員会に諮ることとした。
4. 名誉会員の推薦について協議した結果, 今期大会の特別講演者として来日が予定されている米国の V. A. McKusick 教授 (Johns Hopkins 大学) を外国人名誉会員に推薦することが諒承された。
5. 昨年からの懸案である学会奨励賞の副賞の件について協議した結果, 学会賞に準じ若干の副賞を学会より支出することが諒承された。

6. 次期編集委員長は三輪評議員，編集幹事は中込理事，会計幹事は安河内評議員，庶務幹事は今村評議員に委嘱（留任）されることが諒承された。
7. 理事業務分担が次のように決定された。会計・笹月理事，日本医学会評議員・中込理事，科研費関係・中込理事，IGF・松永会長，遺伝子操作協議会委員・佐々木理事，日本医学会用語委員・笹月理事，会計監査・日暮，浜口各理事。

平成元年 9 月 5 日（庶務幹事 今村 孝）

#### IV. 第 6 回 双生児研究国際会議に出席して

第 6 回 双生児研究国際会議 (ISTS) は 1989 年 8 月 28 日から 31 日まで ローマ市内の Ambasciatori Palace Hotel で開催された。この会議は 3 年毎に行われ、20 カ国 301 名の研究者などが出席した。わが国からは 13 名が出席し、このうち 9 名（浅香昭雄，井上英二，今泉洋子，大木秀一，白川太郎，中田稔，早川和生，又吉国雄，山田一朗）は本学会会員である。

日本人の発表はシンポジウム 1 題，ワークショップ 2 題，一般報告 5 題，ポスターセッションでは 7 題の発表が行われた。

学会の総会において，1992 年の第 7 回 ISTS 会議の開催場所が東京に決定した。また，前人類遺伝学会会長の井上英二先生が，新国際双生児研究協会会長（任期は 1990 年 1 月 1 日～1992 年 12 月 31 日）に就任することが決まった。学会で発表された主なプログラムは次の通りである。

##### 会長講演

シンポジウム—8 (40 題)：ふたごの生物学，ふたごの Embryogenesis, development and chronogenetics におけるふたご研究，別々に成長したふたごと養子研究，psychophysiology と行動についてのふたご研究，臨床医学におけるふたご研究，ふたごの登録と確認方法の標準化，予防医学と薬物への暴露についてのふたご研究。

ワークショップ—8 (50 題)：ふたご研究の方法論，遺伝疫学におけるふたご研究，ふたご研究における分子遺伝学とその他の遺伝技術，多胎妊娠と増殖の介助，三つご以上の多胎出産，ふたごの長期研究と追跡，ふたごと家族の相互作用に関する社会心理的側面，ふたご団体等の組織とサービス・システム。

##### 一般報告—60 題

##### ポスターセッション—69 題

フォーラム—2 題：学際研究についての議論，ふたご・その親・研究者。

(評議員 今泉洋子)

V. **日本学術会議だより** №.14**人間の科学特別委員会設置される**

平成元年 8 月 日本学術会議広報委員会

日本学術会議は、去る4月に開催した第107回総会において、人間の科学特別委員会を追加設置しましたが、今回の日本学術会議だよりでは、この特別委員会に加えて、最近発表された「委員会報告」等について、お知らせいたします。

**人間の科学特別委員会の設置**

本会議は、本年4月に開催した第107回総会において、それまでにすでに設置していた7特別委員会のほかに、「人間の科学特別委員会」の追加設置を決定した。

この人間の科学特別委員会は、同総会中に、委員会の構成（各部2人ずつ計14人）を済ませるとともに、第1回目の委員会を開催する等、直ちに、その活動を開始した。委員長には、中山和久第2部会員が就任した。

今回、本会議が、この特別委員会を設置した理由は次のとおりである。

**〈人間の科学特別委員会の設置理由〉**

ヨーロッパの産業革命に端を発した科学技術の進歩は急速にその度を加え、かつて人類が予想もしなかった程度に物質文明を開花させたが、一方、それによって人類は、過去に見られなかった重大な危機に立たされている。科学技術の進歩は一面において物質偏重の価値観を強め、生命に対する技術介入に係る不安や、地球生態系の激しい変化を招き、社会経済環境にも様々な問題を醸し出している。

人間が創り、人間が発展させてきた科学は、本来、真理を追求し、人間の幸福に貢献すべきものであるにもかかわらず、人類の生活や自然・社会環境に混乱を招いている側面もあるのではないかと、の矛盾も感ぜられ、ここに科学者の苦悩がある。我々は今や、科学の在り方を再考し、早急に人間と科学技術との不調和を克服する視点を明らかにしなければならない。

このためには、「人間とは何か」を問い直し、「人間存在の理法」ともいべき概念を改めて考え、そこに立脚して、科学技術と自然との調和を求め、人類進歩への展望を模索するところから始めなければならない。

人間の人間たる特質はその精神であることを思えば、人間を知性、感性の面から広く捉え、人間そのものについてのもっと深い知識と理解が強く望まれる。この立場から、人間を個体としてばかりでなく、生物学的並びに社会的集団として把握し、人間の総合理解に努める必要がある。

この特別委員会は、このように人間を学際的、総合的に把握し、人類の危機に対処することを目指すものである。

**「委員会報告」2件を発表**

このたび、本会議の「生命科学と生命工学特別委員会」と「化学研究連絡委員会」は、それぞれ、当面の重要問題に関する審議結果を取りまとめ、本会議運営審議会の承認を得て、「委員会報告」として発表した。各「報告」の要旨は次のとおりである。

**ヒト・ゲノム・プロジェクトの推進  
について—生命科学と生命工学特別  
委員会報告—〔要旨〕**

ヒト・ゲノムの全DNA配列決定を主たる目標とするヒト・ゲノム・プロジェクトは、極めて大きなインパクトを学術研究に与えると期待され、我が国として早急かつ重点的に推進すべきである。そのためには推進組織を設け、基本計画の立案、実施計画の策定、省庁間などの協議、国際協力、データ・ベースとレポジトリ整備などを総合的に行うべきである。一方この推進組織と並んでこれと密接に連携し、研究計画の実施に伴う社会的・法律的・倫理的諸問題を客観的・公正に判断することを目的とするチェック機構を設立し、調和のとれた施策を進める必要がある。

**大学等における化学の研究環境の整備  
について—化学研究連絡委員会報告—〔要旨〕**

化学研究連絡委員会は、昭和63年に発表された日本化学会報告書を参考資料として、大学等における化学分野の研究環境の現状について検討を行った。その結果、「全国的視野に立つ化学の新しい研究体制」の実現に向けての努力を傾注するとともに、現行の研究環境を抜本的に改善するために、関係方面に強く訴えるべきであるとの結論に達した。日本化学会報告書に盛り込まれている数項目の重点施策のうちでも、特に、①先端研究設備の購入・維持予算の大幅増額、②研究基盤整備のための大学院関連予算の充実、③化学の特殊性を配慮した研究室面積の拡充、は緊急に実施すべきものと考えられる。

### 平成2年度共同主催国際会議

本会議は、昭和28年以降おおむね4件の学術関係国際会議を関係学術研究団体と共同主催してきたが、平成2年度には、2件増えて、次の6国際会議を開催することが、6月20日の閣議で了解された。(カッコ内は、各国際会議の開催期間と開催地)。

- ◆第14回国際土壌科学学会議  
(平成2年8月12日～18日、京都市)  
共催団体：(社)日本土壌肥科学会
- ◆第22回国際応用心理学会議  
(平成2年7月22日～27日、京都市)  
共催団体：日本心理学会
- ◆第15回国際微生物学会議  
(平成2年9月13日～22日、大阪市)  
共催団体：日本微生物学協会
- ◆第11回国際数学連合総会及び第21回国際数学者会議  
(平成2年8月18日～29日、神戸市他)  
共催団体：(社)日本数学会他6学会
- ◆第11回国際神経病理学会議  
(平成2年9月2日～8日、京都市)  
共催団体：日本神経病理学会
- ◆第5回国際生態学会議  
(平成2年8月23日～30日、横浜市)  
共催団体：日本生態学会

### 国際社会科学団体連盟(IFSSO)第9回大会・総会の日本開催

国際社会科学団体連盟(IFSSO)の第9回大会及び総会が、本年10月2日(月)～7日(土)、東京六本木の国際文化会館と日本学術会議で開催される。

国際社会科学団体連盟(International Federation of Social Science Organizations, 略称IFSSO)は、世界の社会科学の発展に貢献することを目的とする、世界各国の学士院や学術会議で構成されている、社会科学分野を代表する国際学術団体である。現在、35か国の国家会員等で構成されており、我が国では、日本学術会議が、我が国を代表して加入している。また、現在、日本からは本会議の藤井隆第3部会員がIFSSOの事務総長を務めている。

なお、IFSSOは、社会科学分野の国際学術団体の連合体(総括機関)である国際社会科学協議会(International Social Science Council, 略称ISSC)に加入しており、ISSCの中では、国及び地域を代表する機関という位置付けもっている。

今回の会議には、IFSSOに加入している各国の学士院や学術会議の代表、並びに関係する国際機関、国際学術団体の代表など、50を超える国々から約300名(うち、外国人は約150名)の科学者等が参加する。

この会議では、メインテーマ「変容する世界の学術政策」の下に、「研究・訓練体制の改革」、「既存領域を超える新分野」、「社会と科学・技術のインターフェイス」及び「国際協力のアカデミック・インフラストラクチャー」の4つのサブテーマが設けられ、多方面から世界の学術政策の変化が論じられる。

また、この会議では、特に、3つの日本セッションが設けられ、「急激な科学技術の進歩」について、①人間に与えるインパクト、②法律や政治に与えるインパクト、③社会経済システムに与えるインパクト、という3つの視点から

論じられ、日本の先端研究が広く紹介されることになっている。

■本件問い合わせ先：〒102 東京都千代田区紀尾井町7-1、上智大学心理学研究室内、国際社会科学団体連盟第9回大会日本組織委員会事務局、電話 03-238-3811

### 日本学術会議主催公開講演会開催のお知らせ

本会議では、毎年、学術の成果を広く国民に還元するという日本学術会議法的主旨に沿うための活動の一環として、公開講演会を開催しています。

このたび、下記の2つの公開講演会を開催することにしました。多数の方々の御来場をお願いします。

#### I 公開講演会「人間は地球とともに生きられるか」

- 日 時：平成元年10月27日(金)13時30分～17時
- 演題と講演者(カッコ内は所属部)
  - ①「地球の温暖化とその影響」：吉野正敏(第4部)
  - ②「地球環境と農業のかかわり」：久馬一剛(第6部)
  - ③「地球環境の経営と人間社会の発展」：藤井隆(第3部)

#### II 公開講演会「“人権の歩み”から何を学ぶか—フランス人権宣言100年を記念して—」

- 日 時：平成元年11月18日(日)13時30分～17時
- 演題と講演者(カッコ内は所属部)
  - ①「“人権”以前の世界」：弓削 達(第1部)
  - ②「近代日本の人権思想—自由民権運動の人権論を中心に—」：大石嘉一郎(第3部)
  - ③「科学技術と人権」：杉本大一郎(第4部)
  - ④「人権の進化と創造」：南 博方(第2部)
- 会 場：日本学術会議講堂(両講演会とも)  
(東京都港区六本木7-22-34)  
(地下鉄千代田線、乃木坂駅下車1分)
- ◆申込方法：往復はがき(住所、氏名、郵便番号を明記)
- ◆申込締切：各開催日の1週間前まで(先着順、無料)
- ◆申 込 先：〒106 東京都港区六本木7-22-34

日本学術会議事務局庶務課講演会係

■なお、本会議では、本年度には、上記の他に、「日本の学術動向」に関する公開講演会の開催を計画しています。開催日、会場、講演者などの詳細については、決定次第、新聞広告等でお知らせする予定です。

### 日学双書の刊行案内

本会議の第102回総会と第103回総会で行われた、本会議会員による各自討議の記録を中心に編集された次の日学双書がそれぞれ刊行されました。

- ・日学双書 No.4 「21世紀へ向けてのエネルギー問題」
- ・日学双書 No.5 「食糧生産と環境」
- [定価] No.4：1,500円、No.5：1,000円  
(両書とも、消費税込み、送料260円)

※問い合わせ先：(財)日本学術協力財団(〒106 東京都港区西麻布3-24-20、交通安全教育センター内)

御意見・お問い合わせ等がありましたら、下記までお寄せください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34  
日本学術会議広報委員会 電話03(403)6291